

第2回「大人のためのブックトーク」開催しました!

7月16日 I AMAS 小林図書館長と当館司書による本年度2回目のブックトークが開催されました。今回も、小林館長の熱いトークが繰り広げられました。

「藤枝静男著作集」全6巻
講談社 1980年発行



私小説作家を三人あげるならば、島尾敏雄、耕治人、そしてこの藤枝静男であろう。眼科医であるという経験がときとして濃厚なスパイスとなって文体を沸騰させるその書きぶりは、われわれが常識であると思っている日常世界や生死の概念を密やかにズラしてしまう。そんな「藤枝ワールド」を知るにはこの著作集が最適。一冊一冊異なった署名と落款がしてあるのも、読者とつながりたいという藤枝本人の希望によるもの。

「笑わせて笑わせて桂枝雀」上田文世
淡交社 2003年発行



上方落語の爆笑王・桂枝雀の身近にいた芸能記者による評伝。あの爆笑の陰に隠れていたさまざまなドラマを、あまり悲劇的にならないように配慮して展開している。人を笑わせる人は、本人が笑わせられたくてたまらない、というジレンマを枝雀は身をもって表現していた。従って、枝雀の敵は枝雀であった。高座のCDやDVDに絶対に触れなくなる一冊。

「ひととはなぜ戦争するのか」A・アインシュタイン S・フロイト
浅見省吾(訳)
講談社学術文庫 2016年発行

第二次世界大戦が始まる以前、国際連盟はアインシュタインに、いまももっとも書簡を交わしたい人物を訊ねた。彼はフロイトを選んだ。そしてその問いは「人間を戦争という軛から解き放つことができるだろうか」。フロイトは自身の専門の立場から真摯にその問いに答えようとする。現在読めば、あまりに淡白でかつ素朴なやりとりではあるが、逆にだからこそ今読まれるべき一冊なのである。



【岐阜県図書館：多田司書によるおすすめ本の紹介】

テーマ：女流の声

「三千世界に梅の花」富岡多恵子

新潮社 1980年発行

「とげ抜き 新築鴨地蔵縁起」伊藤比呂美

講談社 2007年発行

「オリガ・モリソヴナの反語法」米原万里

集英社 2002年発行

○感想等

- ・子どもに対してブックトークを行っているが、大人に対する新しいタイプの面白い話が聞けてよかった。
- ・自分が知らない作家や本を紹介していただき、「読んでみたいなあ」と思いました。ぜひ、この企画を続けていただきたいです。
- ・小林先生のように、幅広い読書を今後心がけていきたいです。
- ・小林先生の豊かな知識に時を忘れ、聞かせていただきました。貴重な話が聞け、よかったです。
- ・二度目の参加ですが、大変面白かったです。また参加したいと思います。目の覚めるような興味深いお話でした。
- ・「空気頭」を読んでみたいです。枝雀の本も興味があります。エロスとタナトス難しいですね。来月の小林先生のTシャツも楽しみにしています。
- ・1冊を15分にまとめられているのには、びっくりです。本当に引き出しが多い方だと思いました。
- ・知らない本や作者の紹介をしていただいて、とてもよかったです。落語も大好きで、桂枝雀氏の本も読んでみたいと思っています。戦争について考えさせられますので、とてもためになりました。
- ・情報量がすごかった。2冊目の桂枝雀、3冊目のアインシュタインとフロイトの本の話が大変興味深く、しっかり聞かせてもらいました。
- ・人に紹介するとき、その本を読みこむこと、作者とその周辺を知ること、熱意をもって伝えることが大切だと感じました。
- ・「知の巨人」との印象。圧倒されました。私は、藤枝静雄からなら読めるかな。
- ・本当にたくさん本を熟読していらっしゃるからこそできるブックトークだと思いました。紹介された本はいずれも、私の読まない分野でしたが、興味をもてるようになりました。

次回予定

9月10日（土） 14：00～15：15（13：30開場）

無料、申込不要（当日先着60名）